

終わりのあいさつ

今年度は4年間のキャリア教育研究の総括に取り組み、そのテーマを「子どもの社会的・職業的自立を指向し、育ちと学びのプロセスを大切にした授業作り」としました。

それは、私たちが児童生徒の社会的・職業的自立を目指して、教師の子どもへのかかわり方、授業の在り方、教育課程を中心とした学校の在り方を、児童生徒の内面の変容を丁寧に見取ることを基本に探求してきたからです。

本年度は社会的・職業的自立を目指すということ、児童生徒との関わりにおいて、授業においてどういうことなのか。また児童生徒の変容のプロセスを大切にすること、日々の学習にどう具現化するのかを改めて探求しました。

本年度を含め、5年間で俯瞰すると本校の取組や在り方が着実に変わってきています。

ぜひ、本資料に合わせて平成26年度からの研究紀要をご覧くださいければ幸いです。

「先生方、一人一人のパフォーマンスは高いのに、学校のパフォーマンスを考えるとどうなのか。一人一人のパフォーマンスが組織的なものになっていない。」とは、キャリア教育研修会で講師として招聘した企業の代表の方のお話です。

これまでの実践研究で明らかにした本校の教育の方向性や成果を、その時々教師が理解し、学校として継続して実践していく中で改善・充実を図り、学校のパフォーマンスを高める必要があります。そのための仕組みづくりも、キャリア発達をテーマに取り組んだ研究を終えるにあたり重要な課題であると感じています。

また、授業づくりの中で、児童生徒同士が協働したり対話したりしながら、他者を通して自分の考えを問い直し、新たな気づきを得る学びのスタイルや、教師が積極的に地域と児童生徒との出会いを作り出し、地域の中で役割を担う子どもの姿が見られました。これらは、新学習指導要領に示される学びのスタイルや学校の在り方の、本校における萌芽と捉えたいと思います。

今後の本校の教育実践の中で、さらに探求していく必要性を感じています。これまでの取組の中から現れた新たな課題です。

キャリア教育、キャリア発達支援をテーマとした教育実践研究は本年度をもって一つの区切りとしますが、大学の附属学校として今後も今日的な教育課題や先進的な教育テーマを取り上げて教育実践研究に取り組んで参ります。皆様のご指導・ご助言を心よりお願い申し上げます。

副校長 山本 仁